

ミスターホームラン® Lフロアブル

- 種類名：オキサジクロメホン・クロメプロップ・ベンスルフロンメチル水和剤
- 有効成分：オキサジクロメホン-----1.2%
クロメプロップ-----7.0%
ベンスルフロンメチル-----1.0%
- PRTR法指定物質：オキサジクロメホン [第1種] -----1.2%

- 登録番号：第20455号（デフォ登録）
- 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
- 登録初年：2000.08.29
- 性状：類白色水和性粘稠懸濁液体
- 有効年限：4年
- 包装：500ml×20本

【特長】

- ノビエ2.5葉期まで使用できる一発処理除草剤。
- 有効成分クロメプロップの働きにより、SU抵抗性雑草に高い効果を示す。
- ノビエの発生を長期間抑える。
- SU抵抗性雑草(ホタルイ、アゼナ類など)にも効果を示す。
- 直播水稲にも使用できる。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ(九州) クログワイ オモダカ ヒルムシロ セリ コウキヤガラ(九州) アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	壤土 ～埴土	500 ml /10a	1回	田植同時散布 機で施用	北陸
			砂壤土 ～埴土				関東・東山・東海、近畿・ 中国・四国、九州の普通 期及び早期栽培地帯
		移植後5日～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	砂壤土			原液湛水 散布 又は 無人ヘリコ プターに よる滴下	北陸
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 但し、 移植後30日まで	壤土 ～埴土 砂壤土 ～埴土			関東・東山・東海、近畿・ 中国・四国、九州の普通 期及び早期栽培地帯	
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ セリ	稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 但し、 収穫90日前まで	壤土 ～埴土				全域 (北海道、東北を除く)

オキサジクロメホンを含む 農薬の総使用回数	クロメプロップを含む 農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

【効果・葉害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 使用前によく振ってから使用すること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリは2葉期まで、クログワイ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、ヘラオモダカ、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。コウキヤガラ、オモダカ、クログワイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、整地や代かきはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特にていねいに行うこと。
- 散布に当たっては水の出入りを止めて湛水状態のまま本剤を水田全面にゆきわたるように散布すること。
- 本剤を直播水稲で使用する場合、稲の根が露出する条件では、葉害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用すること。
- 本剤を無人ヘリコプターで滴下する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ◆ 滴下に当たっては散布装置のノズルを使用しないこと。
 - ◆ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。

- ◆ 隣接する圃場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人ヘリコプターによる本剤の滴下は行わないこと。
- ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が流入しないように十分注意すること。
- ◆ 薬剤滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液^{タケ}の洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- ◆ 本剤の滴下に使用した無人ヘリコプターの散布装置は、水稻以外の作物への薬剤散布には使用しないこと。
- 本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意すること。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしないこと。自然減水により田面の一部が露出する間際になったら、水尻は止めたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田
- 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないよう適期に散布すること。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、効果不足の恐れがあるので使用を避けること。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。
- 散布器、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した機器等は水稻用薬剤以外に使用しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 散布の際は農薬用マスクなどを着用すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。